

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村 三番地		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=0177600251-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 11 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。暮らされる方、働いている職員、お越し下さる方全員が「笑顔」になれる、「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れる様に全職員で取り組んでおり、事業所の理念である「明るく笑顔であいさつ。今出来る事を大切に。安らぎのある日々。」この理念に基づき、近隣の方々に色々と教えて頂きながら、町内の夏祭りや敬老会等に積極的に参加させて頂き、地域の一員として、地域の方々との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは複数の福祉事業を展開している運営法人が、温かい笑顔が溢れる生活支援を目指し2004年に開設しています。当地には2010年(高齢者住宅併設)に移転しています。周辺は一般住宅が少なく地域との交流は難しい面もありますが、職員は利用者と一緒に町内会行事(夏祭り、敬老会、防災訓練等)には積極的に参加をしたり、道や市が勤めている地域のための介護相談所を立ち上げるなど、ホームへの理解に繋がっています。ホーム内は動線や採光などが配慮され、快適な生活空間になっています。職員は笑顔を絶やさず、利用者の身体機能維持、五感刺激に繋がる支援に努めている「グループホーム笑顔の村三番地」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での暮らしや生活を継続出来る様、事業所独自の理念を作り、理念に基づいた支援を日々心掛けている。	職員は地域密着型サービスの意義を含んだ法人理念を共有し、さらに利用者がその人らしく暮らし続けることへの支援を謳ったホーム理念を策定しています。日常業務やミーティング等で理念が実践できているかを確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや敬老会、防災訓練等に参加し、町内の方々と言葉を交わしたりしている。	職員は利用者と一緒に町内会行事に参加し、ホームへの理解に努めています。ホーム行事にはボランティアの方々の芸能披露があります。また、町かど介護相談所として地域に開かれたホームを目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の皆さんにホームで役立つ事があれば、積極的に協力したいという事を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご家族や町内の方から頂いた意見をミーティング等で全職員に伝え、話し合い、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、行政職員、消防署職員(年1回参加)をメンバーとして2ヵ月毎に開催しています。避難訓練等のホームの取り組みを説明し、その後にはホームの運営に生かせる意見や提案が出されています。	退所した家族がメンバーに加わる予定になっていますが、地域の方々にも会議を開催する意義を理解して頂き、幅広いメンバーの参加の下、活発な意見交換の場となる取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で行われている連絡会議に参加しており、気軽に相談や現状を報告している。	行政には管理者連絡会への出席や書類等の提出で担当窓口を訪れています。定期的に市の介護相談員やケースワーカーの来訪があり、情報や意見交換が行われています。地域の困難事例を行政と協働で解決しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルがあり、それを基にミーティング等で研修している。また、全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束・抑制防止マニュアルを整備し、研修会やミーティング等で職員の理解を図り実践に努めています。車の往来が激しいため玄関は施錠していますが、利用者は職員が同行し自由に出入りしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、虐待やそれに繋がる行為がないか、ミーティングや申し送り等で常に職員は話し合い、研修している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、市で行われる研修に参加したり、勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、わかりやすく、十分に説明し行っている。また、不安があれば、いつでも連絡が出来る様な関係と体制を契約前から作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、意見、不満、苦情を気軽に言える様な雰囲気作りを行っている。また、アンケートを実施し、その結果をミーティング時に職員全員で話し合い、運営に反映させている。	家族には、定期的にホーム便りや個別の手紙、電話等で利用者の日常を伝えています。利用者や家族との関わりの中や、法人による家族アンケートで意見を収集し、出された課題は解決に向けて検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る様に努め、職員の意見を聞く機会を作っている。また、個別面談の機会を設け、ホームの運営に反映させている。	代表者や施設長は頻りにホームを訪れ、利用者や職員と会話を交わしています。役職者は職員の意見や相談を傾聴し、職場環境の整備やケアサービスの向上に繋げています。職員間で夕食時の家族参加が検討され実現に至っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は日常的にホームに来て、職員一人一人に声を掛け、職員の努力や勤務状況を把握しており、時給を上げたり、役職を就け、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や民間で行われている研修会に参加しており、ミーティング等で全体に報告している。また、実践者研修、実践リーダー研修を計画的に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市で行われている管理者会議やスタッフ交流会に参加したりし、他の同業者との交流をする事により刺激を受け、より良いサービスが出来る様、努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成担当者が本人と面談し、要望や不安等を聞く機会を設けており、安心して暮らせる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にお会いしたり、面談の際に要望や不安等を聞く機会を設け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。また、早急に対応が必要であれば可能な限り、他のサービス事業者と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りやおやつ作りの際に、味付けや調理法を教えて頂いている。また、編み物の方法も教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐにご家族に連絡し、利用者の状況等を小まめに伝えたりしている。また、定期的に行っている行事と一緒に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームに来られたり、馴染みの方と電話をしている。	玄関には、北海道地図に職員や利用者の出身地に顔写真を貼って掲示しています。職員は、利用者の昔話を傾聴したり、以前に居住していた家を利用者と訪問しています。また、面会に来られた方を歓迎するなど地域社会との関係性を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性を把握しており、一人ひとりに役割を持って頂き、また、会話や物作り等、職員が橋渡しになり、孤立せずに関わり合える様、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話をしたり、ホームに遊びに来て頂ける様な取り組みを行っている。病院に入院となった方には、面会に行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の会話より、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、日々の様子を観察し、本人本位に検討している。	職員は、利用者の表情や何気なく発した言葉を記録に残しています。家族から得た情報も参考にし、利用者の希望に沿うように職員間で協議しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からお話を聞き、話しやすい環境に配慮しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、異変があれば介護記録に記入し、申し送り等で全職員が把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わり合いから、本人、ご家族の意見、意向を聞き、職員全体でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、3ヶ月毎に作成している。	介護計画は利用者や家族の生活への要望を把握し、さらに医療関係者の意見を踏まえ、職員全員で協議を行って作成しています。介護計画の実施状況は毎日チェック表に記録し、職員間の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、事業所独自の介護記録に、日々の暮らしや変化をわかりやすく記録している。また、業務日誌や連絡ノート、申し送り等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、訪問診療、訪問看護、緊急時の往診、また、通院等の職員の柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、訪問理美容、訪問歯科、介護タクシーを利用し、また、ボランティアを受け入れ、津軽民謡やフラダンスを披露して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、月8回の訪問看護の他にも、電話で相談できる体制が整っている。また、ご家族の希望があれば、医師からの病状の説明等をして頂き、良い関係を築いている。	利用者全員が、内科・循環器科の訪問医を主治医としています。皮膚科など他科への受診は原則として家族対応ですが、殆どの利用者は職員が同行支援しており、診療内容は関係者と共有しています。訪問看護師による定期的な健康チェックが行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員と連携が取れており、また、月8回、訪問看護師も来られ、医療の活用や日常の健康管理について気軽に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連携を密にし、出来るだけ早期退院出来る様に努めている。また、利用者一人ひとりの救急医療情報の書類を作成し、情報交換に活用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、協力医療機関、ご家族、職員の話し合いの場を設け、慎重かつ適切に対応している。協力医療機関と連携し、チームしての支援が出来る様にしている。	「重度化における対応指針」「終末期に関する意向確認書」と、それらの同意書を整備しています。看取りを経験しており、職員は知識や技術の学びを得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修会に積極的に参加しており、急変時や事故発生時の対応については、マニュアルや連絡網等を整備しており、ミーティング等で研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署に協力して頂き、避難訓練を行い、運営推進会議を通して、近隣の方に協力を得られる様に働きかけている。	消防署の指導の下、併設の高齢者住宅と合同で日中・夜間想定避難訓練を年2回実施しています。さらに年1回、地域の防災訓練にも参加し、防災への意識を高めています。地域の方に避難訓練への参加を要請しています。	地域の方々の参加が得られず、課題としています。ホームのみならず、自然災害を含めた非常時に於ける協力体制(行政、地域等)の構築に向けての取り組みに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの時は、個々の名前を出さない様にし、浴室や洗面所はカーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。	接遇については日常業務や研修会等で学ぶ機会があり、職員間でもお互い注意し合うなど意識統一に繋がっています。名前は苗字で呼んでいますが、利用者や家族の希望に沿うこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立に利用者の要望を取り入れている。また、行事等で欲しい物を選んで頂いたり、食べたい物を選んで頂く等、利用者が自己決定しながら生活出来る様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	気が合う利用者同士、廊下のソファや部屋で談笑したり、リビングでテレビをみたり、おのの自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的になじみの訪問美容をして頂いている。また、外出時に一緒に服を選び、オシャレを楽しんで頂ける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際に、利用者の食べたい物を聞き、献立に取り入れています。誕生日には、本人が好きな物を聞き、献立にしています。また、食事の盛り付けや食後の食器拭き等を利用者で行っている。	献立作成時は利用者の意向を取り入れるなど満足度に配慮しています。利用者の希望でちらし寿司やいなり寿司と一緒に作ったり、出前を頼むこともあります。外食(バイキング、回転寿司等)も楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に記入し、全職員が把握している。また、好みの飲み物等、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の歯科衛生士の指導を受け、一人一人に合った口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握しており、さりげなく声を掛け、気持ち良く排泄できる様、支援している。	職員は排泄チェック表を参考に利用者一人ひとりの排泄の間隔を把握しています。声掛けや誘導を行いトイレでの排泄支援に努めた結果、衛生用品の使用が少なくなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んで頂いたり、食事は、食物繊維を多く摂るように留意している。また、ホーム内の散歩や体操等、体を動かす事を日課としている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決めているが、希望の順序や好みの温度に設定し、支援している。	入浴は週2回を基本とし、午後から支援をしています。殆どの利用者が職員の支援で湯船に入っています。入浴時間は、利用者の得意な歌を聞いたり会話を楽しんだり、コミュニケーションの場となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、状況に応じて睡眠や休息出来る様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬がわかる様にファイルしており、職員全体で把握している。薬と食べ合わせが悪い食材等も調べ、ファイルしている。また、服薬して症状に変化がある場合は、直ちに協力医療機関に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、自主的に行っている事を役割として持って頂いている。また、様々なレクリエーションを行い、季節を感じて頂ける様、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や意思を考慮し、日常的に散歩等をしている。	利用者の高齢化に伴い、遠方への外出は困難になっていますが、周辺の散歩や買い物、ドライブを兼ねた外食行事を企画し、外気浴や気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じ、少額のお金を管理して頂いている。また、行事として買い物ツアーを行い、欲しい物を選んで頂き、ご本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があれば、プライバシーに配慮し、自室で出来る様、コードレスフォンにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者が書いた書道や季節に合わせ折り紙で作成したものを飾っている。また、利用者が居心地良く生活出来る様な環境整備に、職員はミーティング等で検討し、工夫している。	玄関には生け花やクリスマスグッズが出入りする人々の目を楽しませています。居間には神棚や一人掛け用のリクライニングチェア、空気洗浄機、温湿度計が設置されています。クリスマスの飾り物や利用者の作品(習字、折り紙工作等)が展示され、華やかな雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファを置くなどして、思い思いに過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、今まで使っていた物や好みの物を持って来て頂いており、その人らしい居室になっている。	居室には可動式の大きなクローゼットが設置されています。温湿度計で利用者の体調管理を図っています。馴染みの調度品や趣味の物が持ち込まれており、利用者が安心して暮らせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、安全で自立した生活が送れる様な環境を作っている。		